



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (22) 7207 番  
96.2.1 No. 4336

## 培ってきた団結力を発揮し

# 分割・民営化10年に決着を

①

## 中野委員長あいさつ 要旨

九五年の一切の諸課題が九六年に先送りされている。とくに国鉄をめぐる攻防は九六年が正念場を迎えることは間違いない。分割・民営化以降、今年四月で一〇年目に入るわけであり、分割・民営化という政策それ自身覆い隠しようもない矛盾が噴出し始めていることは周知の事実である。さらに、動労千葉がこの一〇年間に食いついて闘い続け、国労も清算事業団一〇四七名を中心に国労の旗を掲げながら闘い続けてきた。そのことが一〇年間の経緯を、双方とも決着をつけざるをえない問題となってきた。

そして、何よりもこの一〇年間で動労千葉が培ってきた闘いの力をどのように発揮するかが動労千葉総体にかかっている。今日からの研修会で、九六年をどのように見るのか、どうい

一月二九・三〇日の両日、伊豆大川において、「第四回全支部活動者研修会」が開催され、全支部から三役を中心に五四名が集まる中、動労千葉としての九六年の課題、「JR体制」の崩壊とJR総連の危機、「大失業時代」歴史の転換点と労働者の課題」について認識を新たにするとともに、九六年を持てる力を全力で発揮して闘いぬくことが確認された。

九六年動労千葉闘いの課題 (田中書記長)

続いて、田中書記長より、「九六年一闘いの課題」と題して基調提起が行なわれた。基調提起の中では、動労千葉の一〇年間の苦闘により「JR体制」が揺らぎはじめ、風が変わりはじめたことが確認された上で、①世界的に悲鳴を上げる資本主義の現状と、「大失業時代」の中で危機と混乱を深める支配体制と労働運動の新たな高揚への転換、②時限爆弾化した「JR一〇年目」問題とJR総連改革をめぐめる情勢が提起され、さらに九六年動労千葉の課題として

て三点にわたって提起された。第一点目として、分割・民営化以来最大の正念場を迎えた国鉄闘争勝利に向け、①解雇撤回・清算事業団闘争勝利に向け、現在進行している「和解情勢」については組合原則を貫き闘いを展開する、②反合・運転保安確立の闘いとして、九六・三ダイ改を皮切りに三ステップに分けて闘いを展開する、③一切の闘いをJR総連解体の視点から取り組む、④今年前半の国鉄闘争の集約点として七月一四日に国鉄労働者集会を開催する。

第二点目として、「大失業時代」に抗する労働運動の新たな潮流の本格的発展に向け、①歴史の転換点に立っているという時代認識の上に、「蘇れ労働組合」一とり戻そう労働者の団結を合言葉に本格的な発展を目指す、②日経連報告と対決し、連合を食い破る闘いを全国に組織する、③全国各地で春闘集会を二、三月に組織する、④十一月に「全国労働者集会」を開催し、昨年を倍する労働者の結集を目指す。

第三点目として、安保・沖縄闘争、破防法反対の取組として、①三月二九日、四月一日にかけて「沖縄反戦・交流ツアー」を行なう、②四・二八―五・一五闘争を沖縄・本土を貫き展開する、③六月二三日に「全国反戦集会」を開催する、④憲法改悪に直結する破防法発動に反対し、二・二三「破防法に反対する集会」に参加することなどが提起され、当面、二月二〇日に第三五回定期委員会を開催し、春闘方針等を決定することなどが確認された。

JR総連の危機について (片倉秀生氏)

次に、評論家の片倉秀生氏から、「JR体制」の崩壊とJR総連の危機」と題して第一日目の講演が行なわれた。

講演では、分割・民営化「一〇年目問題」が正念場となる九六年の闘いの中で、JR総連改革マル問題が切っても切り離せない問題であること。とくに、JR総連改革マルがファシスト的に行なっている「ワークシェアリ

ング運動」や新たな国労・千葉解体策動、「軍需生産」唱など、揺らぎ始めた「JR体制」の中で生き残りをかけておがくJR総連改革マル解体・一掃の闘いが国鉄労働者にとって最重要になってきていることなどが明らかにされ、第一日目を終了した。

全支部で学習し、国鉄闘争に勝利しよう!

第二日目は、埼玉大学教授鎌倉孝夫氏より「大失業時代」歴史の転換点と労働者の課題」と題して講演が行なわれ(講演内容は後日掲載)、資本主義の危機・亀裂の深化、「日経連報告」の意味するもの、労働者階級の時代認識と進むべき方向性などが提起された。

最後に、中野委員長よりまとめが行なわれ、「第四回全支部活動者研修会」は成功裡に終了した。

「研修会」で提起された内容を全支部で学習し、国鉄闘争勝利、JR総連解体・一掃、労働運動の再生へ九六年を闘いぬこう。